

仙台地区研究のまとめ
「生活で活用できる力」の育成を目指して
～「つながり」を生かす指導の工夫～

仙台地区教育研究会技術・家庭科部会
研究部長
富谷市立富谷第二中学校 教諭 鈴木 正光

1 はじめに

仙台地区教研では、宮城県の研究主題である『「生活で活用できる力」の育成を目指して ～「つながり」を生かす指導の工夫～』を受けて、これに迫るために各郡市ごとに研究に取り組んだ。各郡市の課題や地域性を考慮し、研究の視点を「生活に活用できる実践的な力の育成を意識した授業づくり」「地域とのつながりを生かすための指導の工夫」の2つとし、研究を進めた。

2 研究のねらい

各郡市の課題や地域性を考慮し、「つながり」を生かすことを意識した教材研究や授業研究などを通して、宮城県の研究主題に迫る。

3 研究の方法

- (1) 各郡市において「生活に活用できる実践的な力の育成を意識した授業づくり」と「地域とのつながりを生かすための指導の工夫」の2つを視点として課題を設定し、研修会を実施する。
- (2) 会員が宮城県の研究主題に沿った実践研究を主体的に進め、研究成果を会員で共有する。

4 研究の概要と成果

【亶理郡】

○実技研修（技術分野）

日時：7/28 亶理町立亶理中学校
内容：ペットボトルを利用したメカの製作
講師：佐藤 隆亮（逢隈中教諭）

○施設見学（家庭分野）

日時：11/17 株式会社GRA
内容：イチゴとトマトの大規模生産施設見学
<成果と課題>

・技術分野

市販の材料を活用し、さまざまな方法で工夫できる教材であり幅広く活用できることが分かった。

材料費がやや高いものの容易に製作でき、導入教材としても扱える内容である。ICTを活用することにより製作過程をスムーズに理解できた。

・家庭分野

技術分野、家庭分野ともに参考となる内容であった。総合的な学習や地域学習としても活用できる施設であることがわかった。今後、研究員の方とどのような連携をとっていけるか検討したい。

【岩沼市】

○施設見学（家庭分野）

日時：6/8 東北セキスイハイム工業
目的：よりよい住まいの工夫について見学する
内容：ユニット工法の工場見学

○調理実習（家庭分野）

日時：11/2 岩沼西小学校
内容：乳製品を用いた調理実習
講師：雪印メグミルク株式会社

<成果と課題>

・家庭分野

東北セキスイハイム工業では、ユニット工法による住宅の見学を通して、家庭生活や住居において、よりよい住まいにするための工夫が分かり、授業づくりの参考になった。また、乳製品を用いた調理実習でも乳製品の特徴や調理の仕方を学び、より実践的な授業力が身に付いた。

課題としては、研修内容が家庭分野に偏りがちなので、技術分野の研修も入れるとよいのではないかと考える。

【名取市】

○実技研修

日時：11/10 名取市立みどり台中学校

・技術分野

内容：外部講師による教材作成

・家庭分野（食物領域）

内容：オープン料理、あんかけ焼きそばの調理
講師：鈴木恵理子（料理研究家）

・家庭分野（被服領域）

内容：フラワーアレンジメント

講師：三浦 悦子

<成果と課題>

どの分野も授業にすぐ使えそうな実習内容で、楽しく和気あいあいと取り組むことができた。外部講師の活用により流れもスムーズで、短時間で効率よく作業に取り組むことができた。内容を工夫するとともに、小・中の合同研修なので連携できるようなテーマを絞ることも検討していきたい。

【塩釜市】

○研究授業（家庭分野）

会 場：塩釜市立塩釜第三中学校

題材名：食品の選択と保存

授業者：佐藤いづみ先生

<概要>

・授業づくりの視点

①学習カードの活用

②学習形態の工夫（グループ学習）

<成果と課題>

技術・家庭科は生活経験が響く教科である。授業を展開する中で、場面の設定やシナリオ、食品カードの活用も必要だった。グループ学習では、しっかりと考えていた。教師の説明の時間を抑え、話し合わせる時間やまとめの時間を確保する必要がある。学習カード、ワークシートづくりの重要性を再認識することができた。

【多賀城市】

○施設見学

日時：10/ 4 トヨタ自動車東日本(株)

場所：トヨタ自動車東日本(株)宮城大衡工場

内容：工場紹介、工場見学、質疑応答

<成果と課題>

トヨタ自動車東日本は大企業であるだけでなく、東北地方の震災からの復興に大きく寄与してきた経緯もあるため、参加者の多くは高い関心をもって研修に臨んでいた。大衡工場は企画、開発から生産までを一貫して行っており、小型車を生産する全体の流れを見学できたこと、大型ロボットや自動搬送機が稼働している様子を間近で見学できたことは有意義であった。

本工場では、地元の人材が全体の8割を占めており、トヨタ東日本学園を併設するなど、人材の育成にも力を入れている。今後、東北にある企業

の生産技術の高さや取組のすばらしさを生徒たちにどのように伝え、学ぶ意欲に変えていけるかが課題である。

【黒川郡】

○実技研修（技術分野）

日時：7/ 1 富谷市立東向陽台中学校

内容：木材加工の導入教材の紹介など

講師：山崎教育システム株式会社 様

○実技研修（家庭分野）

日時：11/10 大和町立大和中学校

内容：調理実習（まほろばの里サンマ祭り）

講師：梅木 知恵先生（大和中教諭）

<成果と課題>

技術分野では、山崎教育システムにお願いし、1枚の板材から木製品を作成する教材を紹介していただいた。組立説明書が秀逸で、資料集として活用できるようになっており、メーカー側が力を入れている点を知ることができた。作業実習では発泡スチロールの板材でミニチュアの本棚を作成し、授業に生かす体験をすることができた。

家庭分野では、「旬のサンマ御膳」と称して調理実習を行った。三枚おろしや片袖開きに挑戦し、つみれ汁や炊き込みご飯、梅チーズ巻きといった料理を完成させることができた。ワークシートもよくできており、生活で活用できる実践的な力を意識した題材であった。

5 研究のまとめと今後の課題

今年は「生活に活用できる実践的な力の育成を意識した授業づくり」「地域とのつながりを生かすための指導の工夫」という2つの視点で各郡市を中心に研究に取り組んだ。

各郡市の報告を見ると、既習事項を実生活で活用していこうとする態度を身につけさせることを意識した研究が行われている。「つながり学習」が重視している、①適切な題材の設定、②指導の手立ての明確化、③ワークシートの工夫、に向けた研究も行われており、本研究は概ね一定の成果を得ることができたと考えられる。

第4次産業革命が叫ばれている今日、私たちは「未来のつくり手となる子どもたちを育む技術・家庭科の在り方」をイメージし、学習指導要領の改訂を視野に入れながら新たな研究に取り組んでいく必要があると考える。